

マルチクラフター（多能工）を育成しよう！！

はじめに

建設産業は、若年の入職者が少なくなっており、また特に他産業と比べても高齢者の割合が高い産業構造となっていることから、中長期的な技能者の確保・育成とともに、生産性を向上させることが必要です。その有効な対策の一つとして、以下のような利点が考えられるマルチクラフター（多能工）の活用があります。

- 工種の入替がないことによる工期の短縮、手戻りの縮小、人材の有効活用、コスト縮減
- 一連の工事で同一の者を配置できることによる品質の向上、業務改善範囲の拡大等
- 各企業における技能者の雇用の継続が促進されることで、外注が減少し、重層下請構造が解消

国土交通省では、マルチクラフターの推進を図るため、マルチクラフターの育成・活用の好事例集を作成致しました。マルチクラフターの育成・活用の御検討に、ぜひ活用ください。

マルチクラフターを育成する利点・留意点

マルチクラフターとは？

建設工事において、連続した複数の異なる作業や工程等を遂行するスキルを有する個人、あるいはそれを可能にする生産システム

マルチクラフターを育成する利点・留意点

【経営者にとって】

<利点>

- 工種の入替がないことによる工期の短縮、手戻りの縮小、コスト縮減
- 人材の有効活用による繋閑調整、受注機会の拡大
- 一連の工事で同一の者（適切な能力と資格を有する者）を配置できることによる品質の向上、法令順守の徹底、施主・元請からの信頼の向上、業務改善範囲の拡大

<留意点>

- 社員であることが前提であり初期費用が必要（教育費等）
- 複数職種にわたる建設業許可の取得の必要性
- 育成しても、給与等において適切に評価（処遇）しないと、離職される可能性
- マルチクラフターを前提とした発注システムがないと活用されない可能性

<備考>

- マルチクラフターは、リフォーム工事など小規模な工事において「工種の入替がないことによる工期の短縮、手戻りの縮小、人材の有効活用、コスト縮減」といった効果が大きく発現する
- 教育費の抑制、人材の有効活用を図る観点からは、前後工程のスキルを身に付けたマルチクラフターを育成すると効果的
- 経営者はマルチクラフターの育成にあたっては、上述の点等を踏まえつつ、マルチクラフターが担う役割を明確化し、外注した場合のコストと比較する等、総合的に判断することが重要

【技能者にとって】

<利点>

- 活躍できる場所の拡大による雇用の安定
- 適切な評価システムの下では、取得した資格等に応じた給与・地位の向上が望める

<留意点>

- 一つ一つのスキルを熟練するという点に関しては不利になる可能性

参考

マルチクラフターのスキルはOJTで身につけることが多いが、マルチクラフター育成コース用意している教育訓練施設もある。

例) 富士教育訓練センターでは躯体やリフォームを中心にマルチクラフター育成コースを用意（土木基礎多能工、建築基礎多能工、躯体多能工（鉄筋、型枠、仮設）、リフォーム内装施工）